

家畜衛生情報

香川県畜産課
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204
 香川県東部家畜保健衛生所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香川県西部家畜保健衛生所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

定期報告書の提出をお願いします



令和8年1月に県内で発生した高病原性鳥インフルエンザにつきましては、関係各位の防疫対応へのご協力に感謝申し上げます。

さて、毎年、畜産農家の皆様に提出をお願いしている定期報告書ですが、今年も提出の時期がやってきました。

この定期報告書は、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、口蹄疫等の発生予防や発生時における迅速なまん延防止対策を図るため、家畜の飼養者による報告が義務付けられています。

提出いただく内容としては、毎年2月1日時点の飼養頭羽数などを記載した定期報告書に加えて、農場の衛生管理についての自己点検結果や農場平面図、消毒設備の種類や埋却地の情報が記載された書類などになります。高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病発生時は、定期報告書の記載内容に基づき防疫対応を行います。迅速な防疫対応のため、定期報告書には正確な内容を記載してください。なお、定期報告書と自己点検の項目は毎年少しずつ変更されていますので、**必ず令和8年の様式**でご報告ください。

また、自己点検の結果、○が付かない項目は直ちに改善し、農場の衛生対策を向上させた上で、書類を提出してください。

提出方法は郵送、FAX、メールに加えて、令和7年2月から、農林水産省共通申請サービス(eMAFF)上で電子申請が可能となっています。家畜ごとに、指定された期日までに提出するようお願いいたします。

また、手当金の減額を防ぐためにも、改めて飼養衛生管理基準の徹底をお願いします。



牛、豚、馬、水牛、鹿、めん羊、山羊、いのしし	4月15日
鶏、あひる、うずら、きじ、エミュー、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥	6月15日

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/seibukachiku/teikihoukoku/index.html>



お知らせ



○令和8年度ヨーネ病定期検査予定地域について

令和8年度の搾乳又は繁殖のために飼育している雌牛等を対象に実施している、ヨーネ病定期検査対象地域は、高松市、観音寺市、三豊市、まんのう町の各一部地域を予定しております。

○第89回香川県畜産共進会の結果について

【農林水産大臣賞受賞者】

県HPに受賞一覧表を掲載

出品区分	名号	受賞者
第2部(肉用種牛)第5区	はつこ	まんのう町 森藤洋子氏
第3部(肉豚)	ソウイチロウ1	綾川町 (株)STPF 太田宗一朗氏
第4部(肉牛)第1区	—	観音寺市 合田政光氏



<https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/57998/89kyousinnkai1-4.pdf>



牛ボツリヌス症の発生予防について



牛ボツリヌス症は、ボツリヌス菌が産生した毒素により発症する病気で、全国的に散発しています（下表のとおり）。野生動物の死体や糞便の混入により、ボツリヌス菌に汚染された飼料を食べることで感染します。牛の大量死がみられ、畜産経営に大きな損害を与えることから注意が必要です。有効な治療法が無いため、野生動物侵入防止や飼料の汚染防止など発生予防対策に努めるとともに、多大な経済的損失を抑えるためにはワクチンによる発症予防が有効です。ただし、ワクチンは発症を予防しますが感染は防げませんので、まずは基本的な飼養衛生管理の徹底に努めましょう。

【症状】

四肢、下顎、咽頭部等から始まる筋肉の麻痺が特徴。食欲不振、腹式呼吸、流涎（よだれ）、舌麻痺、後軀麻痺など筋肉麻痺が全身に広がり、呼吸困難により死に至る。発症後、半日～2日で死亡する牛が多く、致死率が高い。短期間に牛が大量死することもあり、大きな経済的損失を引き起こす。

【対策】

- 野生動物、野鳥(特にカラス)の侵入防止
- 飼料の汚染防止
- 変敗サイレージは牛に与えない
- 飼槽・水槽・畜舎周囲の清掃
(有効な消毒薬：塩素系、ヨード系、アルデヒド系)
- ワクチン接種（4週間隔2回接種）

近年の牛ボツリヌス症発生状況(全国)
(他疾病との合併症を除く)

	発生戸数	発生頭数	死廃頭数
令和6年	7	152	106
令和5年	7	35	27

農林水産省消費・安全局 家畜衛生週報より



豚の抗病性 DNA マーカーについて

家畜衛生研修会(病性鑑定:生化学部門)から



DNA マーカーとは、動物や植物の遺伝子の中で、特定の性質や能力と関連する遺伝子配列の一部を指します。このマーカーを利用することで、外見からは分かりにくい病気に対する抵抗性などの特性を、「遺伝子レベル」で評価できるようになります。近年の育種技術の進展により、育種や繁殖の現場で有用な DNA マーカーの利用が拡大しています。

例えば、豚サーコウイルス 2 型 (PCV2) は豚の病気やへい死の原因となる重要なウイルスの一つで、近年の研究により、デュロック種の「第 13 染色体」に PCV2 感染によるへい死と強く関連する遺伝子領域があることが明らかになっています。この遺伝子領域を DNA マーカーとして利用することで、PCV2 に対して抵抗性の高い豚を選抜することが可能となり、群全体の健康維持や生産ロスの軽減につながります。

このように、DNA マーカーを活用することで病気に強い豚を効率よく選抜でき、飼育管理の効率化や疾病対策の強化にも寄与します。

豚の抗病性遺伝子型 (DNA マーカー: EIR [PCV2 抵抗性]、NOD2 [細菌・PCV2 抵抗性]、NOD1 [細菌抵抗性]、NLRP3 [ワクチン応答性]、TLR5 [サルモネラ抵抗性]) 5 項目を、一般社団法人家畜改良事業団で 1 検体から同時に検査可能です。ご興味のある方は、ご検討されてみてはいかがでしょうか。

近年注目されている肉用鶏の感染症



第66回中国・四国ブロック家畜保健衛生業績発表会から

肉用鶏は品種改良により急速に体重が増え、脊椎障害により脚麻痺や脚弱といった症状が発生しやすくなっています。近年、こうした症状に Enterococcus cecorum (EC) という細菌が関与している事例が報告されています。今回は、ECの週齢ごとの病態についての発表演題を紹介します。

○発表内容○

脚弱が多発している肉用鶏農家において、病性鑑定を実施したところ、ECによる脊椎腫瘍が原因であることが判明しました。そこで、2週齢から出荷まで毎週3羽ずつ検査を実施し、週齢ごとの病態を調べました。

【結果】

	症状	解剖・細菌検査
2週齢	活力あり、脚弱なし	臓器でEC検出(1羽)
3週齢	活力低下・脚弱が散発	心外膜炎、第六胸椎付近腫大、臓器でEC検出(3羽)
4週齢以降	活力低下減少 脚弱多数	心外膜炎、第六胸椎付近腫大病変増加、ECが検出される臓器が減少

3週齢までは菌血症を発症しやすく、3週齢前後で敗血症発症や第六胸椎付近の腫瘍形成、3週齢以降は第六胸椎付近の腫瘍形成による脚弱を誘発する可能性が考えられました。

EC感染症は経済的損失の観点から重要な疾病ですが、実態が明らかになっていない感染症です。残念ながら、発症してからの抗菌薬等による治療は効果がないとされています。少しでもリスクが減るよう、一般的な衛生管理を心がけてみてください

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県) R7.8月~R7.10月

	疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生延べ戸数	発生頭羽数 (蜜蜂は群数)
法定	ヨネ病	牛	鳥取県、岡山県	R7.10	2	2
届出	牛ウイルス性下痢	牛	岡山県	R7.9	1	1
	牛伝染性リンパ腫 (旧:牛白血病)	牛	兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県	R7.8~R7.10	86	101
	破傷風	牛	岡山県	R7.10	1	1
	サルモネラ症	牛	鳥取県、岡山県	R7.9~R7.10	2	2
	豚丹毒	豚	兵庫県、広島県、徳島県、香川県、高知県	R7.8~R7.10	12	13
	伝染性ファブリキウス嚢病	鶏	岡山県	R7.8	1	3
	ロイコチトゾーン症	鶏	岡山県	R7.8	1	6
	レプトスピラ症	犬	兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県	R7.8~R7.10	10	10
	伝染性膿疱性皮膚炎	めん羊	兵庫県	R7.8	1	2
	アカリダニ症	蜜蜂	兵庫県、鳥取県、愛媛県	R7.9~R7.10	3	5

第13回全国和牛能力共進会準備状況

【第3区(若雌の2)】令和7年3~6月にかけて交配を実施し、令和7年12月下旬より候補牛が出生。
 【第8区(去勢肥育牛)】出生した候補牛のうち20頭が、R8.1.23に開催された第8区出品候補牛のオークションに出品。8月下旬の最終比較審査に向けて、巡回調査及び巡回審査を適時実施予定。